

—いのち、くらし、平和が大事！—

日本共産党京都市議会議員

山本 陽子 活動ニュース

VOL.25 2017年6月18日号

連絡先 日本共産党山科区生活相談所 山科区西野大手先町8-8 ☎595-8342

共謀罪法案
反対です！

山本陽子議員の活動



5月議会の報告

5月18日から平成27年定例会（5月開会市会）がはじまりました！

小中一貫校の推進は教育リストラ！

私が所属している教育福祉委員会に付託された、向島小・中一貫校の建設議案について、日本共産党議員団は「小学校、中学校の統廃合の推進は教育リストラである」と反対をしています。



この学校統合が進めば、いまある74校がなんと19校に集約されてしまいます。質疑や提出資料で明らかになったことは、向島の3小学校と1中学校が統合して、一つの小中一貫校に統廃合する結果、36クラスが20クラスになること。学校への支出額は、約5400万円から約4000万円に減るということで、まさに教育リストラです。しかし900人近い子どもが通う学校なのに、国が定めた基準に対してグラウンドの面積は73%しか整備できていません。

地元の赤阪議員と一緒に現地を視察しました。秀吉によって築造された太閤堤跡（たいこうづつみあと）がある、まさに歴史が見える地域です。電車が頻繁に通過する踏切を渡らなければ通学できない子どもたちがいるので、その対策も求められています。

統合で廃校になる向島南小学校には400人近い児童がいるにもかかわらず、「中学校区内だから」と統合対象になりました。PTAの保護者の方は、「統合されれば教育内容が向上して、また人が集まってくるのでは？」と期待されていますが、大人数になると子どもにとっては厳しい教育環境になります。それで人が増えたらまた学校をつくる必要が出てきます。その時にまたつくるのですか？京都市は、国に対して学校統合を自慢するのではなく、教育予算を増額させて、子どもたち一人ひとりに目が届く、少人数学級を推進させることこそが必要です。



敬老乗車証を守ろう！

6月4日に「敬老乗車証を守ろう！」と京都市内全域をキャラバン隊が回り、私も宣伝をおこないました。

京都市は現在、敬老乗車証制度に46億円を負担していますが、お金がかかるので利用料を設定した応益負担へ変更しようとしています。しかし、名古屋市では、調査によって、敬老乗車証には「35億円の経済波及効果がある」と報告されて、京都市でおこなわれようとしている応益負担への変更を中止した、ということがありました。

京都市は、費用がかかるからと言うだけではなく、敬老乗車証によってどんな波及効果があるか、もっと市民の実態を調査するべきです。ただお金がかかるからという理由だけで利用者に負担増を強いるのは無責任です！



民泊新法（住宅宿泊事業法）で、違法民泊は防げるのか？！

本庄たかお府議会議員と一緒に、山科の「民泊」を調査しました。山科区では2015年度以降に開業された簡易宿所は6軒しかありません（4月30日現在）。しかし、準備中の民泊や違法民泊は山科にもありました。

賃貸アパートの簡易宿所への転用で、住人さんが強制退去を求められているそうです。また、住宅専用地域で違法民泊が営業されており、部屋のなかから中国人系観光客の声が聞こえてきました。今でさえ、違法民泊の指導、摘発は追いつかず、さらに住宅専用地域でも届け出さえすれば、民泊が営業できるようになるという「民泊新法」。住民の住環境と調和し、しっかりと安全安心が保障されるような京都市のルールづくりが求められます。

ヨロコの

ママチャリ

子育て日記

「宿題せねばならぬ」の再考



引き続き、子どもたちの学校生活と格闘しています。お姉ちゃん、は、三年生になってから宿題が増えており、自主学習の宿題がある日はもう大変！先週の日曜日は、その前の金曜日、学童保育に行っていなかったため、プリントやドリル学習ができておらず、夜九時近くになってようやく完了。……そこから「自主学習、何にしよう？」「と悩みはじめます。「同じ部首の漢字シリーズにすれば？」と言うと、「漢字ドリルしたから、もう漢字はイヤ！」と言います。九時近くになって、これではアカン、と「もう宿題やめにしたら？」と私が言うと、「宿題

していかね、絶対イヤや〜！」と泣き叫び始めました。あちゃ〜。……気持ちを切り替えるためにお風呂に入り、そのあとで音楽で習った学習のおさらいをノートに書いて一件落着。でも寝たのは一〇時になりました。先日、新婦人の体験企画「ママカフェ」で、マイケルムーア監督の『世界侵略のススメ』という映画を観ました。びっくりしたのはフィンランドでは子どもたちに宿題がないんです！高校生でも自宅学習は一五分程度。それでも二か国語三か国語が話せるらしい。担当者が言うには「宿題を出せば子どもたちがしたいことができない。家族と過ごす時間が少なくなるから」ですって！フィンランドの子どもたちは、世界トップクラスの学力があると言われています。

「宿題せねばならぬ！」にがんじがらめになるのではなく、子どもにとってそのことがどうなのか見る視点も必要だと、気づかせてもらいました。

